

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取 組 分 野：【食】、【IT】、【知的財産】

1. 都道府県、市町村 ^{きたやまむら} 和歌山県北山村
2. 事業 者 名 北山村役場
3. 取 組 みの 名 称 『じゃばら』と『筏師』の里
4. 取 組 概 要 等

概 要

北山村は紀伊半島の中央部に位置し、南は三重県、北は奈良県に囲まれ、和歌山県でありながら和歌山県のどの市町村とも隣接しない全国でも唯一の飛び地の村で、村の97%を山林が占め、人口570人程度の小さな村である。

昔から良質の杉に恵まれ、この地域は林業で栄えていた。伐採した木材を新宮へ運ぶ手段として始まった筏流しは、600年もの歴史を有し、かつては人口の大半を筏師が占めていた。

昭和40年代に入り、北山川にダムの建設とともに道路も整備され、木材の運搬が水路から陸路に切り替わったことで、村の主産業である林業が国産材不況で低迷した。そこで、昭和54年8月、かつて「筏師」として全国的にも評価されていた筏流しを観光の目玉「北山川観光筏下り」として復活させることとした。

平成10年度より、先人たちが磨いた筏流しの技を次の世代に守り伝えていくために、**筏師の後継者を全国より募り、後継者の育成と定住の促進に取り組んでいる。**

また、北山村でのみ栽培されている「じゃばら」は、昔から北山村に自生している柑橘植物である。

昭和46年、柑橘分類の専門家の田中論一郎博士によって、**「じゃばら」は国内はもとより世界に類のないまったく新しい品種であることが判明された。**

原木の持ち主である福田国三氏が、小さい頃から慣れ親しんでいたじゃばらの味、香りは他の柑橘類よりも優れていることから、「じゃばら栽培は北山村を過疎から守る産業になる」と呼びかけた。

昭和54年に**種苗法による品種登録を行なう**と同時に「じゃばら振興会」を組織し、じゃばらの栽培に取り組んだが、知名度や販路の狭さから思うように進まずにいた。

平成13年にインターネットのショッピングモールへの出店を開始し、平成15年に和歌山県工業技術センターが**花粉症などのアレルギー抑制効果がある物質を含んでいる**ことを学会発表したことなどを契機に、販売量も伸び、栽培意欲も向上してきている。

活動の規模

項目	H12	H13	H14	H15	H16
生産量	55	51	48	53	70
解説	じゃばら (t)				
売り上げ	27,000	50,000	100,000	135,000	175,000
解説	じゃばら (千円)				
来客数	7,521	7,512	7,625	7,727	7,527
解説	観光筏乗船客 (人)				

活用している地域資源

- ・北山村特産の『じゃばら』生産及び加工品
- ・6百年の歴史をもつ筏下り
- ・北山川や森林など熊野の自然を活用

地域活性化のポイント

『じゃばら』のPR活動、インターネット販売により全国的に北山村の知名度が高くなるにつれ、観光筏くだり等の観光産業への集客も増加することとなった。また、村内の雇用対策や農業後継者の育成としては、『じゃばら』の栽培～加工～販売に係る従業者、パートの人数の増加が挙げられる。

事業の今後の展開方向

現在、『じゃばら』加工品は需要に応じきれない状態で、増産体制の確保が急務であり、需要者側に立った対応を目指している。

また、地域住民参加型の増産を目指し村の活性化を図りたい。

今後も、「北山村のじゃばら」として産業化を図って行くため、じゃばらを地域のブランドとして位置づけていく施策を講じて行きたい。



北山村の伝統柑橘じゃばら



じゃばらの収穫



じゃばらを使用した製品



北山川観光筏下り